

ETC の多目的サービス ～ポルトガルの ETC サービス～

ITS・新道路創生本部 中村 徹

REPORT

1 はじめに

ETC は 50 カ国以上で利用されている。ETC 車載器や ETC として利用されているタグは道路課金以外のサービスでも利用している国もある。

ポルトガルの ETC は、道路課金だけでなく、駐車場の支払い、ガソリンスタンドの支払い、マクドナルドのドライブスルーの支払い、フェリーの支払いそして車両のメンテナンスの予約・支払いなどの ETC を活用した多目的サービスが行われている。

ポルトガルの ETC を活用した多目的サービスについて、調査したので報告する。

2 ポルトガルの ETC

(1) 概要

ポルトガル全体の有料道路は約 3,000km で、日本と同様に地域毎の事業者により運用が行われ、ポルトガルの ETC は CEN-DSRC による MLFF (Multi Lane Free Flow フリーフロー) で運用されている。(国境付近では料金所が設置されている。) 3,000km の有料道路の内、約 1,300km をポルトガルの中北部の道路課金事業である ascendi Group が行っている。同社はポルトガルだけでなくスペイン、ブラジル、メキシコ、モザンビークでも道路課金事業を行っている。

ポルトガルの道路課金は、ETC と自動ナンバープレート読み取り方式 (ANPR) によって行われている。ETC 車載器を搭載していない車両、ETC の受信エラーの車両そして外国車両は ANPR で課金され、料金は ETC よりも手数料分高く、支払いが遅れると違反車両として扱われ、罰金を支払うこととなる。(外国車両や ETC が搭載されていない車両は、ナンバーを読み取った後にパトロールカ

ーによって料金を徴収される。)

ETC のガントリーは、スウェーデンのストックホルムで実施されている都市内課金と同様に三つのガントリーが設置されている。前後のガントリーにはナンバープレートを読み取るカメラがあり、前方のガントリーには車線毎のカメラに加えて全車線を撮影するカメラも設置されている。中央のガントリーには DSRC アンテナと車両検知器が設置されている。

料金収受は 80 % が ETC、11 % が VTC (video toll collection ナンバープレートによる課金)、9 % がマニュアル (料金所など)

詳細は下写真を参照



(2) ETC の多目的サービス

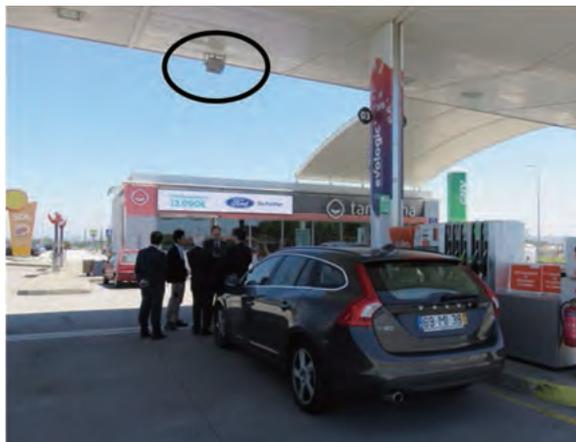
ポルトガルも道路の財源がなくなり、道路事業だけでなく新しいビジネスで収入増を検討している。Ascendi が 20% 出資している Via Verde (1991 年に設立、ETC の多目的サービス事業者) と共に ETC を利用した多目的サービスと交通情報提供サービスを実施している。将来の新たなビジネスとして、スマートフォンを利用した交通全体の運用と支払い方法を検討している。

ETC 車載器は、道路の料金収受だけでなく駐車場の料金決済も大きな事業として展開している。駐車場の他のサービスとして、ガソリンスタンド (1 社のみで実施)、マ

ックドライブ（ポルトガル内11ヶ所）、フェリー（リスボン）そして車両メンテナンスの予約や支払いがある。

ETC 車載器を利用した決済は、道路課金以外は利用時にボタンを押してから通信によって決済が行われる。

マクドナルドの場合は、1回の利用上限額が30ユーロ、1回利用すると6時間経過しないと再度利用できない。



車載器との通信用のアンテナ



ETC 車載器で支払うときのボタン



車載器

(3) ETC利用者向けの顧客サービス

スマートフォンのアプリを利用したサービスを実施

ETC 車載器（Via Verde）の利用者で、スマートフォンのアプリを登録した人は利用金額によってポイントが付与される。ポイントは、ガソリンの割引、ホテル代の一部として利用そしてレジャー施設の利用料金の一部として利用

●スマートフォンのアプリ



ホームページ コンテンツ 全サービスの位置情報

できる。

アプリを登録した人は、高速道路の状況（画像）を見ることが出来る。アプリには交通情報やサービス利用可能施設が地図上に表示される。

(4) オートバイ向けETC

ポルトガルの高速道路では、オートバイも ETC を利用することが出来る。

オートバイの ETC 車載器は車と同じ物を使い、腕に取り付ける専用ケースを装着して使用する。料金は乗用車と同額だが、Via Verde に登録すると乗用車の 30%引きとなる。（割引は 2016 年から）



オートバイの利用方法